

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

12 December

6日 仕事と子育てを楽しむ「第2回 Family Meeting」を開催

10日 工学部創造工学センターの技術職員3人に「学長奨励賞」を授与

12日 岡山大学うるかむデーを開催。同時に、イルミネーションイベント「Okayama University Fantasy」が開かれ、25日までピーチユニオン周辺でイルミネーションを点灯



20日 定例記者発表を開催

27日 グローバル人材育成のあり方とキャリア形成について考える「高大連携フォーラム」を開催



1 January

1日 自然科学研究科の沈建仁教授が平成24年度朝日賞を受賞

3日 田中宏二エグゼクティブアドバイザーと自然科学研究科の沈建仁教授が、第71回山陽新聞賞を受賞



1

アフリカ地域の小学校教員など教育関係者が、本学教員の指導のもと初等理科教育を学ぶ2ヶ月間の研修を開始



9

16日 本学と国内9社が産学連携で共同研究に取り組む「酸化鉄太陽電池技術研究組合」を設立

大学院自然科学研究科の池田直教授が開発した酸化鉄化合物「ダリンフェライト」を用いた新しい太陽電池の実用化を目指し、本学と国内9社が産学連携で共同研究に取り組む「酸化鉄太陽電池技術研究組合」を設立。本学津島地区内にある「岡山大インキュベーター」で設立総会を開催。組合は2012年12月4日付で経済産業省から設立認可。池田教授がプロジェクトリーダーを務め、原価が安いグリーンフェライトの特性を生かした安価で高効率な酸化鉄太陽電池の早期開発に向け、素材開発を進めていく予定。福武総一郎・ベネッセホールディングス取締役会長と、戸田俊行・戸田工業代表取締役社長の2人が理事長に就き、本学の山本進一研究担当理事が理事を務める。

17日 日本人学生と留学生が交流するインターナショナルナイトを開催



17

優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「岡山大学若手トップリサーチャー研究奨励費」に自然科学研究科の坂本浩隆准教授を選出し表彰

25

インド国立コレラ及び腸管感染症研究所のインド人研究者が、山本理事らを表敬訪問



2

1日 卒業生フオロアップセミナーを東京で開催

8

男性教職員のワークライフバランス向上を考える特別企画「育 Men's Club」を開催



15

量子力学の基本原理として長年知られてきた「ハイゼンベルグの不確定性原理」を破る新事実を実験で証明したウーイン工科大の長谷川祐司博士が講演

21

ポストドク・博士課程大学院生のための講演会・インターンシップ報告会を開催



21

定例記者発表を開催

25・26

平成25年度個別学力検査等前期日程を実施

3 March

1日 異分野融合先端研究コア第一期生修了記念シンポジウムを開催

5・6

全国の大学の学生・教員・職員の三者が一体となった大学教育の改善について考える学生FDサミット2013春「岡山サミット」を開催

6

国立六大学間で包括連携に関する協定を締結

7

前期日程の合格者を発表



研究・臨床成果

■異分野融合先端研究コアの守屋央朗准教授(特任)らの研究グループは、酵母がもつすべての遺伝子の「限界コピー数」を測定することに成功した。すべての遺伝子の限界コピー数が測定されたのは、あらゆる生物種で初めて。本研究の成果は、ダウン症候群やがんなど、染色体数の増加によって引き起こされる病態の解明に役立つと期待される。米科学誌 Genome Research オンライン速報版に掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の佐藤あやの准教授らの研究グループは、細胞内輸送のうち、律速段階と考えられている、COP1(コップ1)小胞による輸送の制御機構を解明した。今後本研究の成果を利用し、律速段階を完全にコントロールすることができれば、老化やストレスによる細胞内輸送の変化に役立つと期待される。米科学誌 PLOS ONE オンライン版に掲載。(1月・臨時記者発表)

■異分野融合先端研究コアの仁科勇太助教の研究グループは、グラファイト(黒鉛)から酸化グラフェンを合成する工程の時間短縮化に成功した。酸化グラフェンは、触媒、各種電池材料、大型ディスプレイなどへの応用が期待されており、今後大量生産技術の確立を目指すこととしている。(1月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の榎本秀一教授らと理化学研究所の研究グループは、溶液と固体の両方の状態で蛍光を発する有機蛍光色素「アミノベンゾヒナノキサントレン系(ABPX)色素」の発光メカニズムの解明に取り組み、ABPXが複数の分子構造へ瞬時に変化すること、カラフルな蛍光や発色を示すことを明らかにした。英国王立化学会誌 Physical Chemistry Chemical Physics に掲載され、同誌の Hot Article に選出された。(2月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の世良貴史教授、森友明研究員らの研究グループは、グループが開発した DNA を切る人工のハサミ(人工制限酵素)を用いて、標的ウイルスのゲノム DNA を切断することにより、ウイルスを不活性化することに成功した。この手法は、ゲノムが DNA からなるすべてのウイルスに適用可能で、DNA ウイルス感染によって引き起こされる様々な疾患の予防への応用が期待される。米科学誌 PLOS ONE オンライン版に掲載。(2月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の榎本秀一教授らと理化学研究所の研究グループは、細胞内の亜鉛濃度を制御している亜鉛トランスポーター「ZIP1」が、細胞外からの刺激に応じて、ゴルジ体から細胞質へ亜鉛を放出し、B細胞抗原受容体(BCR)のシグナル伝達を活性化させる重要な膜タンパク質であることを発見した。今回の成果は、亜鉛と免疫機能の関連の解明や細胞内シグナル伝達分子として働く亜鉛の詳細な機能、さらには亜鉛トランスポーターの機能不全に起因したさまざまな疾患に対する治療法の開発にも貢献することが期待できる。米科学誌 PLOS ONE オンライン版に掲載。(3月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の山田浩司准教授、竹居孝二教授の研究グループは、神経回路網の形成に必要な神経細胞の突起伸縮を制御する機構を発見した。今後、神経変性疾患の発症機序や脊髄損傷患者の神経回路再生機構の解明、その新規治療法への応用が期待される。米神経科学会雑誌 The Journal of Neuroscience に掲載。(3月・臨時記者発表)